

5. 初雁公園及び川越城址の段階的整備

初雁公園及び川越城址の整備については、実現性を踏まえ、短期、中期の段階的整備とする。
また、長期について、初雁公園の将来の状況変化への対応や川越城址整備の目標設定は以下のとおりである。

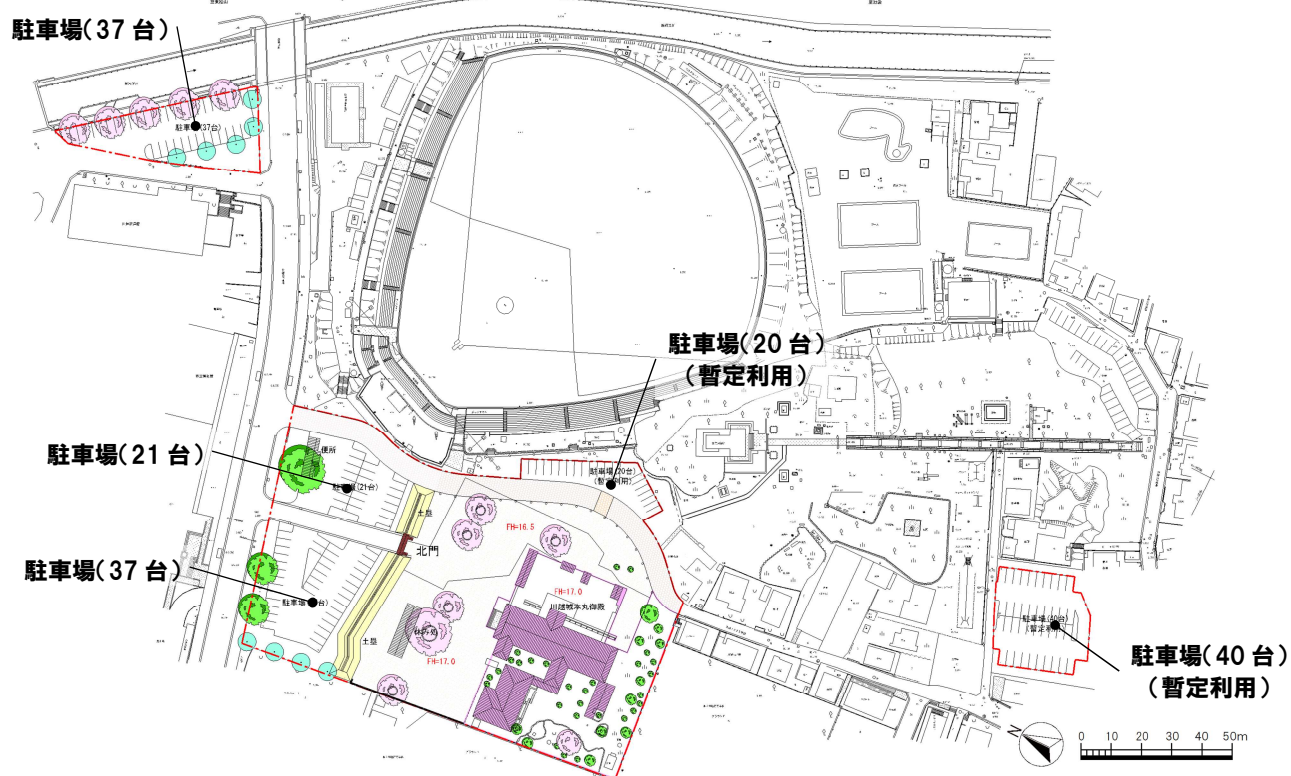
	短期（3年）	中期（概ね10年程度）	長期
年次	2019年～2022年 ・市制100周年を目標年次とする。	2023年～2032年 ・初雁公園の全体整備の年次とする。	2033年～ ・市制100周年から次の100年に向けた基本姿勢を示す。
川越城址整備の目標	・史跡川越城跡の地上遺構や城址の痕跡の情報発信、見学などで、市民の関心を高める。 ・初雁公園をセンターとして川越城中ノ門堀跡と富士見櫓跡と連携した城址公園を発信する。	・史跡川越城跡のその他の遺構の顕在化を図り、更に城址公園を拡大展開する。	・史跡川越城跡全体をネットワーク化し、発掘調査等の結果の内容を踏まえた上で、川越城の総構が視覚できるような整備を推進する。
川越城址の整備	・初雁公園の本丸御殿周辺の整備を行う。 ・富士見櫓跡を安全に見学できるように環境整備を行うとともに、富士見櫓跡の整備方法の検討を進める。 ^(※1) ・城郭等をめぐるルートを設定し、サイン等の整備を行う。	・初雁公園について公園整備を完成させる。（一部復元建造物を除く） ・富士見櫓跡の整備を行う。 ^(※1) ・遺構の発掘調査等の結果等を基に、サイン等の増強を行う。	・帯郭門等の復元整備を行う。 ・回遊路の美装化等の整備を行う。 ・公有地における城址公園化や遺構についてサイン等の増強を行う。 ・VR・AR技術等の活用に伴う整備も行う。
初雁公園整備の目標	・歴史拠点の中心を担う初雁公園の中核となる川越城本丸御殿の風格を高め、歴史公園への舵をきり、市民の関心を高める。	・運動公園機能を移転・廃止し、歴史公園としての公園整備を完成させる。（一部復元建造物を除く） ・市民が運営に主体的にかかわっていく。	・川越城址のセンター機能を強め、川越城の総構の周知を図る。 ・発掘調査の成果の反映や外部条件の変化に応じた整備を行う。
初雁公園整備	・本丸御殿玄関の旧状の復元と、北門、土塁の遺構復元により本丸御殿周辺の趣きを整え、北門周辺も暫定整備する。	・運動施設を移転・廃止し、短期整備を除く公園全体の整備を行う。 【新初雁公園の全面的供用開始】	・帯郭門等の復元を行う。
初雁公園整備に必要な調査設計	・川越城本丸御殿玄関廻り周辺の遺構調査を行う。 ^(※2) ・北門及び周辺土塁跡、堀跡、道路等の遺構調査を行う。 ^(※2) ・市道付替に伴う遺構調査を行う。 ^(※2) ・市道付替設計を行う。 ・短期整備区域の本丸御殿・広場ゾーンの基本実施設計を行う。 ・野球場、プールの移転先等の検討を行う。	・野球場、プールの移転等を行う。 ・帯郭門及び周辺遺構調査を行う。 ・土塁跡、堀跡、新曲輪、帯曲輪、本丸の曲輪跡及び周辺道路等遺構調査を行う。 ^(※2) ・天神門及び周辺遺構調査を行う。 ^(※2) ・中期整備区域の基本・実施設計を行う。	・外部条件の変化に応じた各種遺構調査を行う。 ^(※2) ・外部条件の変化に応じた整備の基本・実施設計を行う。
必要な体制整備	・川越城本丸御殿、三芳野神社、川越城中ノ門堀跡、富士見櫓跡を含めたパンフレットの作成等基礎的な情報発信を行う。 ・川越城をテーマとしたガイドの育成を行う。 ・ガイドのしくみづくりと情報発信の場の検討を行う。	・ガイドのしくみと情報発信の場が効果的に機能発揮できるような体制整備を行う。 ・川越城をテーマとしたガイドの育成を行う。 ・VR・AR技術など見学・学習からまち歩きまで活用できるしくみの検討を行う。	・VR・AR技術等の活用によるツールの開発を行う。 ・VR・AR技術等を活用する。

(※1) 富士見櫓遺構については、遺構である櫓台の盛土が風化し、小さくなっている現状を踏まえ、櫓台と富士見櫓の復元のあり方と、VR・AR等の技術の活用などの方法について、比較検討した上で進める。

(※2) 復元や整備に当たっては、発掘調査等により遺構を確認した上で進めることから、発掘等の状況によっては、想定した復元や初雁公園基本計画図についても見直しが必要になる場合もある。

□ 初雁公園整備短期

川越城本丸御殿玄関の旧状復元と北門、土塁の復元を行い、川越城本丸御殿の風格を高める。また、市道の付替までは行うが初雁球場、プールが供用中のため暫定利用可能な駐車場を整備する。



□ 初雁公園整備中期

運動施設を移転・廃止し、帯郭門等の復元を除く公園全体の整備を行う。

□ 初雁公園整備長期

帯郭門等の復元を行い、公園整備を完成させる。

